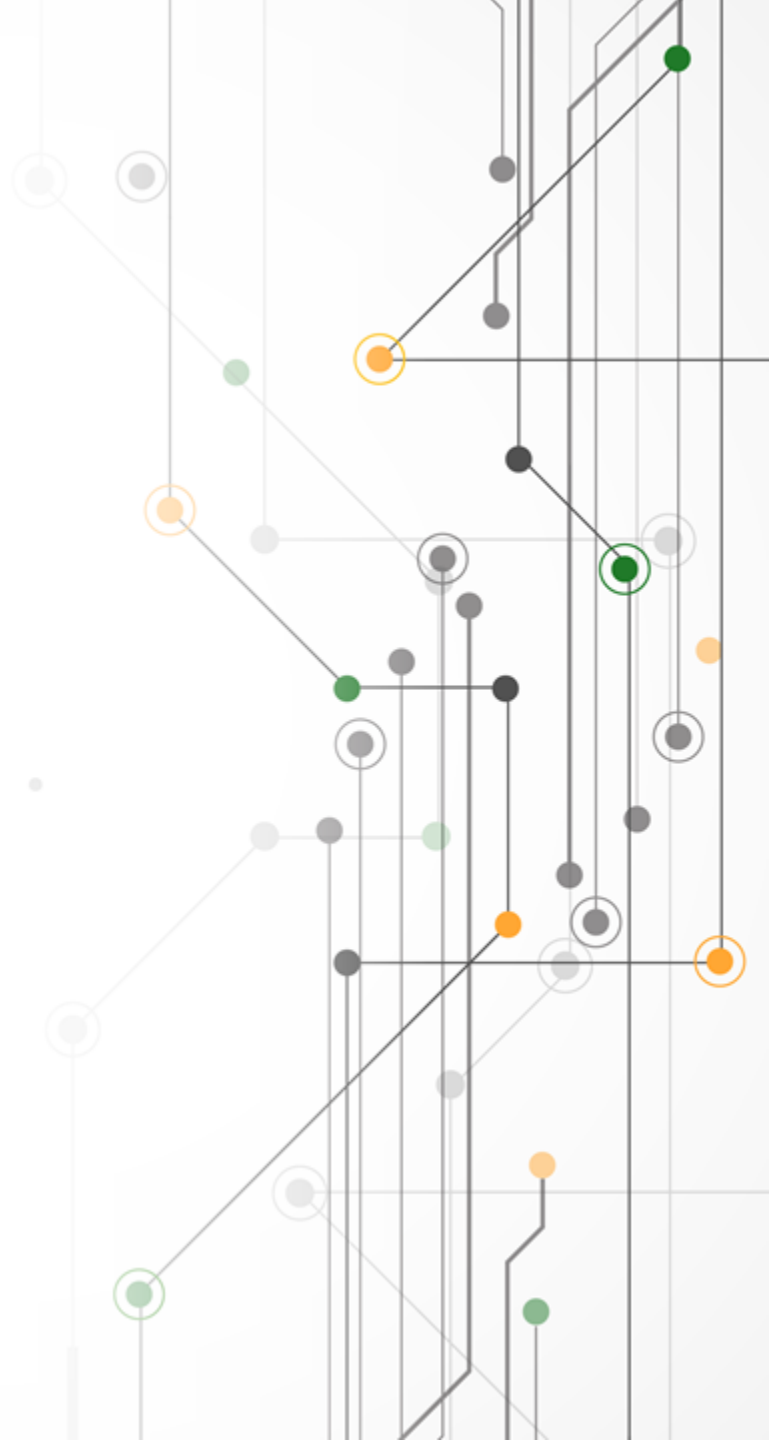


# 株式会社リョーサン 2022年度第2四半期 決算補足資料

2022年11月15日

株式会社リョーサン



## 決算概要

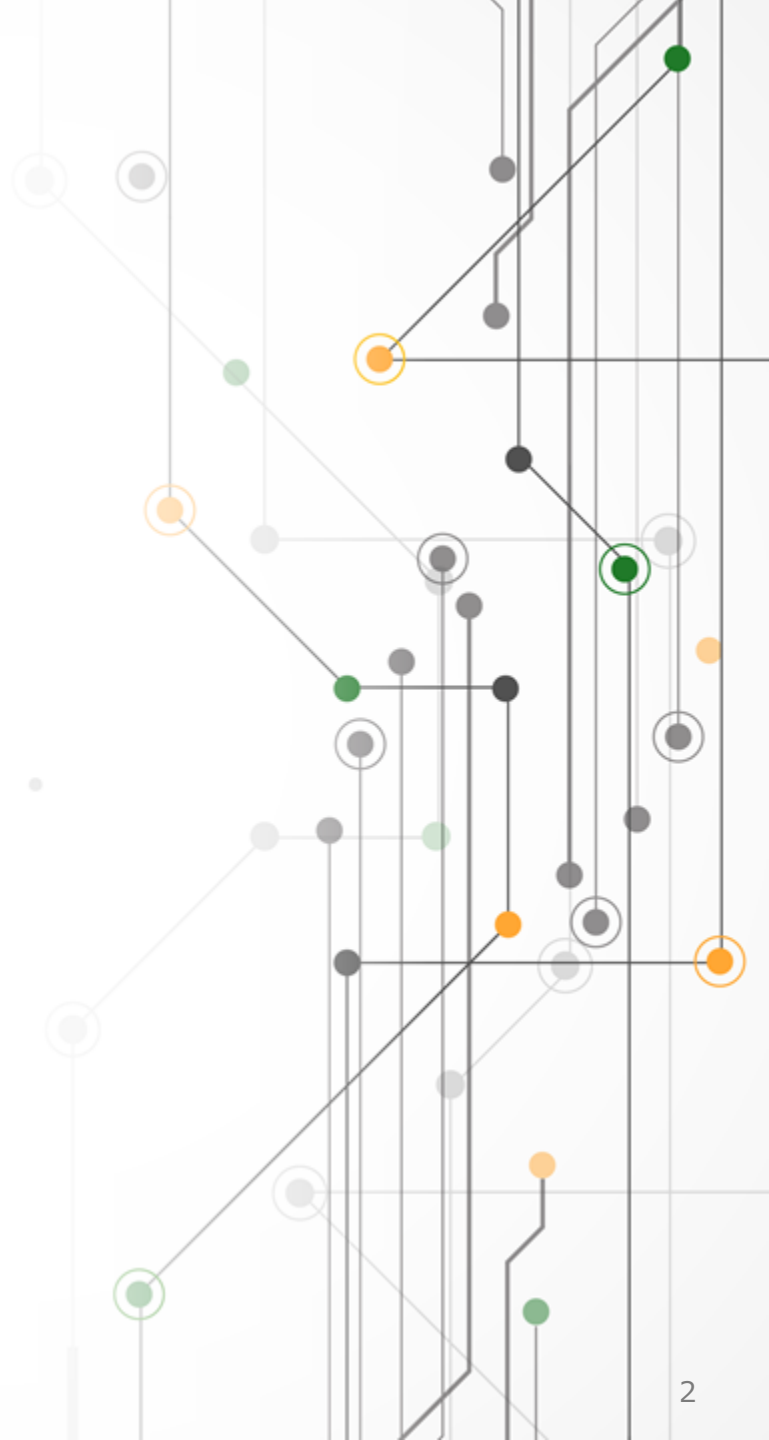
## 第11次中期経営計画進捗状況

## Appendix

### 資料取扱い上のご注意

本資料で述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等





# 連結業績の概要

RYOSAN

- 2022年度上期連結業績は、中計施策効果と円安等背景に前年同期比/期初予想比増収増益。
- 1株当たり当期純利益は、半期過去最高更新。

(単位：億円)	2021年度		2022年度		
	上期実績	2022年5月13日付 期初予想	上期実績	前年同期比	期初予想比
売上高	1,242	1,340	<b>1,677</b>	+35.0%	+25.2%
売上総利益	116	116	<b>175</b>	+51.2%	+51.5%
営業利益	40	33	<b>90</b>	+119.8%	+172.9%
(売上高比)	(3.3%)	(2.5%)	<b>( 5.4%)</b>	(+2.1pt)	(+2.9pt)
経常利益	40	32	<b>65</b>	+62.3%	+105.8%
(売上高比)	(3.3%)	(2.4%)	<b>( 3.9%)</b>	(+0.6pt)	(+1.5pt)
当期純利益	29	22	<b>44</b>	+53.8%	+103.4%
(売上高比)	(2.3%)	(1.6%)	<b>( 2.7%)</b>	(+0.4pt)	(+1.1pt)
1株当たり当期純利益(円)	124.17	93.90	<b>191.02</b>	+53.8%	+103.4%
米ドル 期中平均為替レート(円)	109.80	110.00	<b>133.97</b>	+22.0%	—



RYOSAN

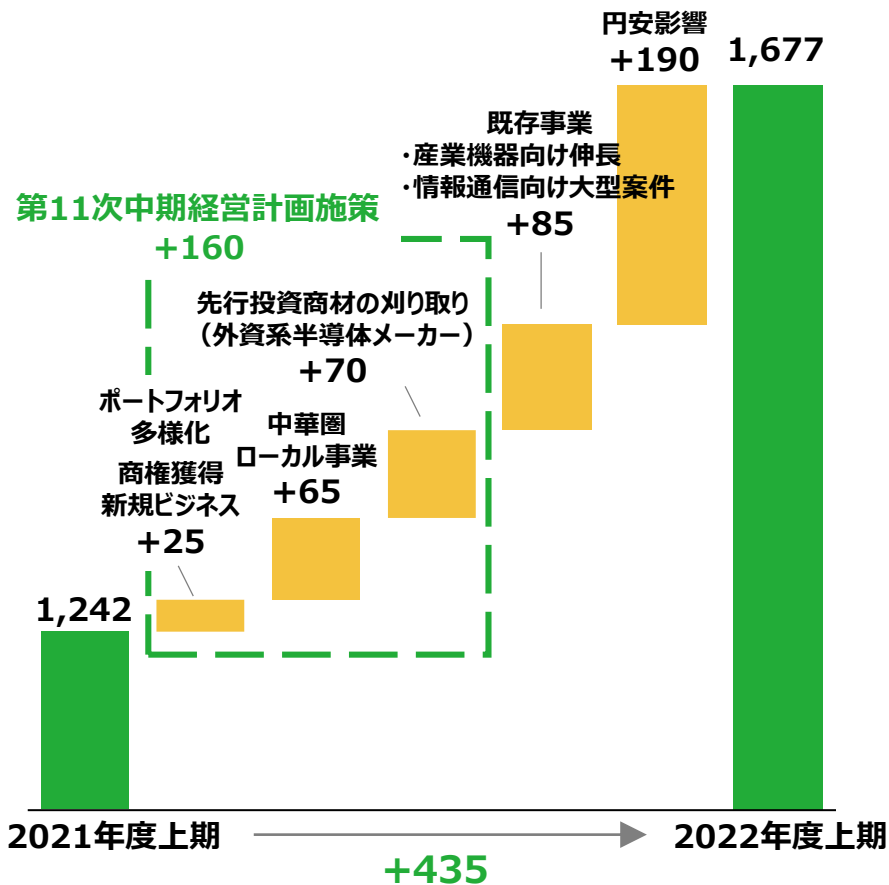
# 売上高・営業利益の増減要因

2022年度第2四半期

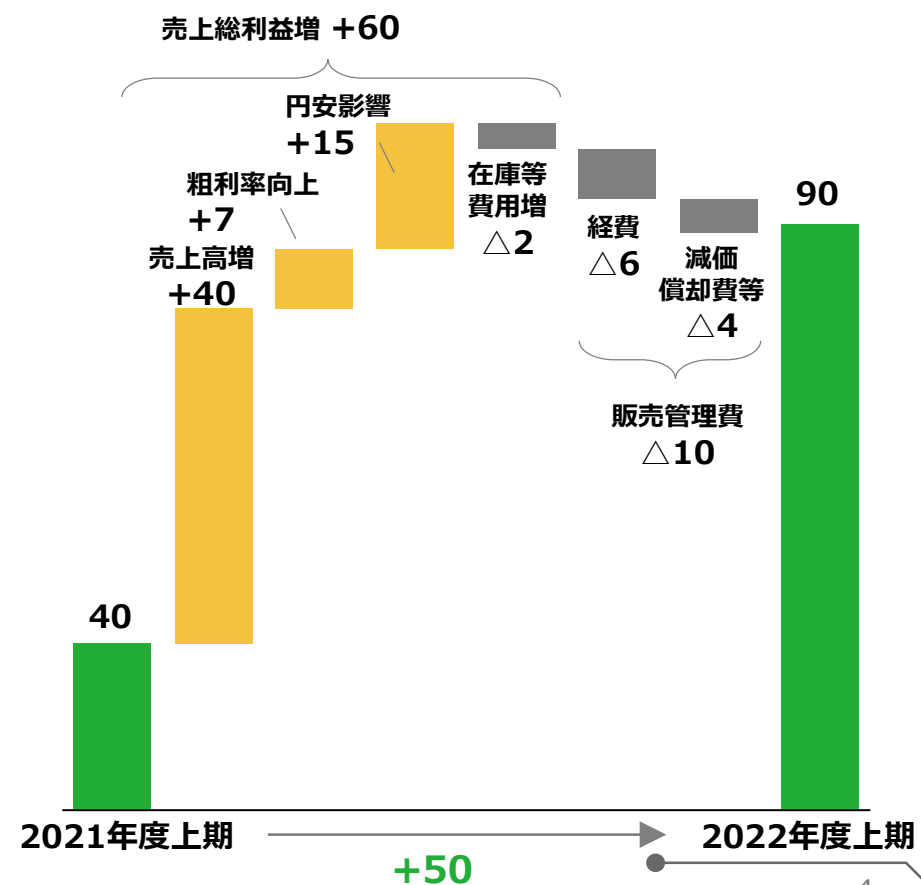
業績結果

- 売上高は、第11中期経営計画施策である先行投資商材の刈り取り等により前年同期比+160億円となったことに加え、既存事業伸長、円安寄与により、同比+435億円。
- 営業利益は販売管理費増となったものの、売上高増、粗利率向上等により、前年同期比+50億円。

## 売上高（億円）



## 営業利益（億円）



## 事業別業績の概要

RYOSAN

- デバイス事業は、第11次中期経営計画の施策効果が発現した他、産業機器向け高付加価値製品を中心に販売が伸長した結果、売上高は前年同期比+33.4%の1,462億円、営業利益は同比+139.0%の82億円。
- ソリューション事業は、情報通信向け大型案件が牽引し、売上高は前年同期比+46.7%の214億円、営業利益は同比+76.2%の11億円。

(単位：億円)		2021年度	2022年度			
		上期実績	2022年5月13日付 期初予想	上期実績	前年同期比	期初予想比
デバイス 事業	売上高	1,096	1,155	<b>1,462</b>	+33.4%	+26.6%
	営業利益	34.6	30.0	<b>82.7</b>	+139.0%	+175.9%
	(売上高比)	(3.2%)	(2.6%)	( <b>5.7%</b> )	(+2.5pt)	(+3.1pt)
ソリューション 事業	売上高	146	185	<b>214</b>	+46.7%	+15.7%
	営業利益	6.6	6.0	<b>11.6</b>	+76.2%	+94.5%
	(売上高比)	(4.5%)	(3.2%)	( <b>5.4%</b> )	(+0.9pt)	(+2.2pt)
計	売上高	1,242	1,340	<b>1,677</b>	+35.0%	+25.1%
	営業利益	40.9	33.0	<b>90.0</b>	+119.8%	+172.9%
	(売上高比)	(3.3%)	(2.5%)	( <b>5.4%</b> )	(+2.1pt)	(+2.9pt)



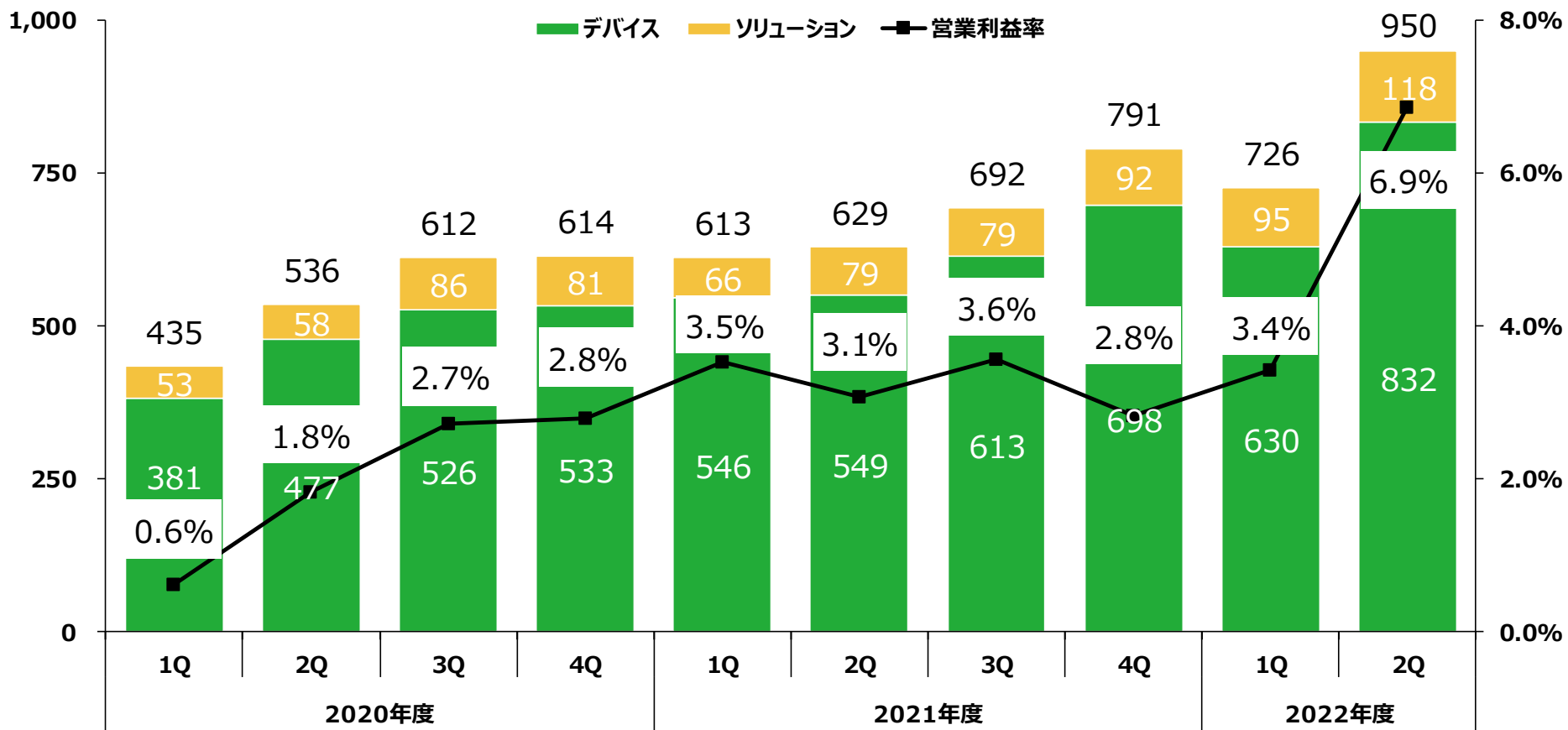
# 四半期毎 売上高・営業利益率

RYOSAN

- 売上高は2020年度3Q以降600億円を超える水準。2022年度2Qは950億円。
- 営業利益率も2020年度3Q以降2%強で推移。2022年度2Qは6.9%。

売上高（単位：億円）

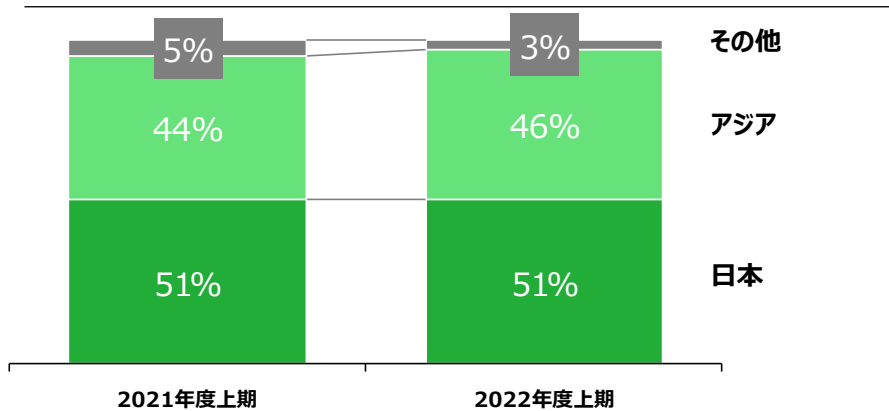
営業利益率



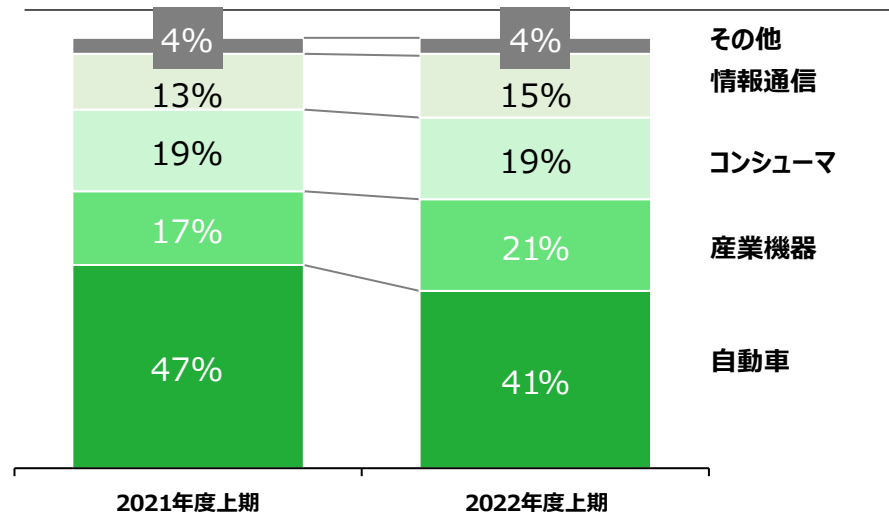
# 事業セグメントの推移

- 地域別の売上高構成は、中国ローカルビジネス伸長したアジアの割合が増加。
- 用途別では産業機器向けの割合が増加。商品別では個別半導体・システムLSIの割合が増加。

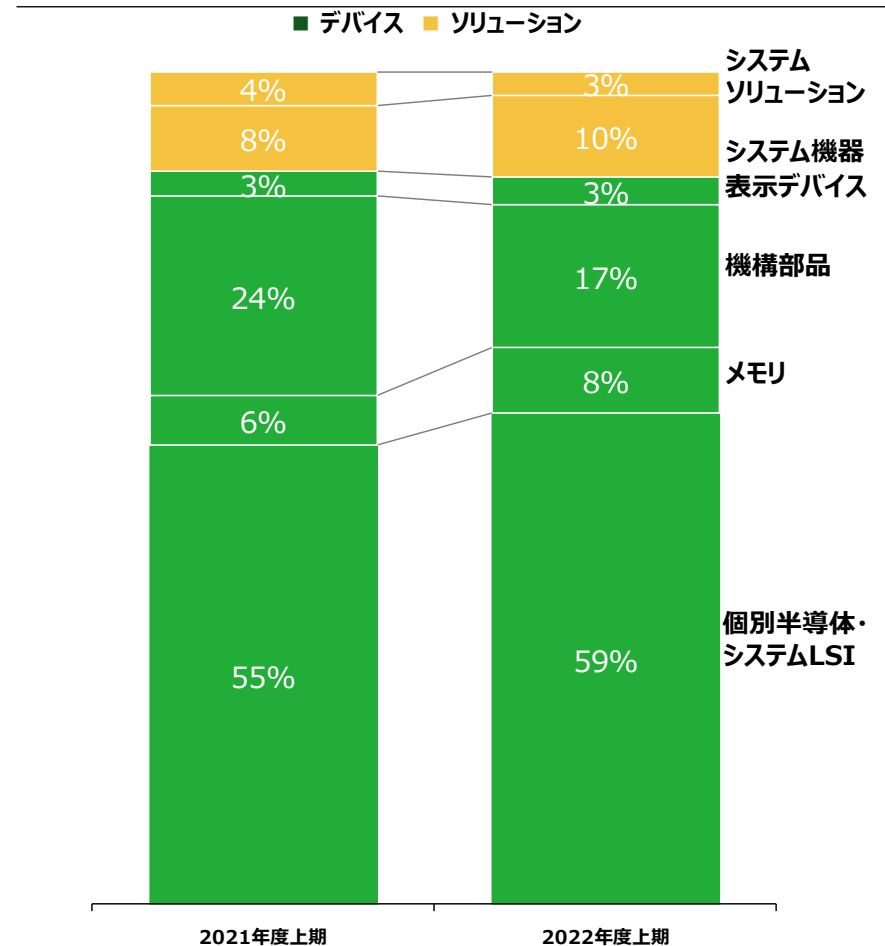
## 地域別



## 用途別



## 商品別





- 増収による売掛金増等の結果、総資産は2,053億円。営業CFは増益、棚卸資産及び未収入金減少の結果、20億円。

## 連結貸借対照表

(単位：億円)	2021年9月末	2022年3月末	2022年9月末	前期末比
総資産	1,555	1,905	<b>2,053</b>	+148
流動資産	1,401	1,768	<b>1,914</b>	+146
売掛金	713	925	<b>1,090</b>	+165
棚卸資産	470	526	<b>511</b>	△15
未収入金	46	187	<b>169</b>	△18
固定資産	153	137	<b>138</b>	+1
負債	647	958	<b>1,040</b>	+82
買掛金	360	429	<b>443</b>	+14
短期借入金・リース債務・CP	218	433	<b>501</b>	+68
純資産	907	947	<b>1,012</b>	+65
自己資本比率	58.3%	49.7%	<b>49.3%</b>	△0.4pt

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)	2021年度上期	2021年度下期	2022年度上期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	△51	△289	<b>20</b>	+309
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1	8	<b>△1</b>	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	11	189	<b>△2</b>	△191
現金及び現金同等物の期末残高	163	120	<b>138</b>	+18



# 連結予想の概要



RYOSAN

- 2022年度連結業績予想は、マクロ環境に不透明感高まりが見られるものの、引き続き一定程度の販売伸長を見込み、売上高及び全ての利益項目において前年度比増。

(単位：億円)	2021年度		2022年度		
	上期	通期	上期	通期予想	前年度比
売上高	1,242	2,726	1,677	<b>3,000</b>	+10.0%
売上総利益	116	249	175	<b>295</b>	+18.4%
営業利益	40	88	90	<b>130</b>	+46.8%
(売上高比)	(3.3%)	(3.2%)	(5.4%)	<b>(4.3%)</b>	(+1.1pt)
経常利益	40	80	65	<b>100</b>	+23.7%
(売上高比)	(3.3%)	(3.0%)	(3.9%)	<b>(3.3%)</b>	(+0.3pt)
当期純利益	29	53	44	<b>70</b>	+30.6%
(売上高比)	(2.3%)	(2.0%)	(2.7%)	<b>(2.3%)</b>	(+0.3pt)
1株当たり当期純利益(円)	124.17	228.75	191.02	<b>298.79</b>	+30.6%
米ドル 期中平均為替レート (円)	109.80	112.38	133.97	<b>129.49</b>	+15.2%

## 事業別予想の概要

RYOSAN

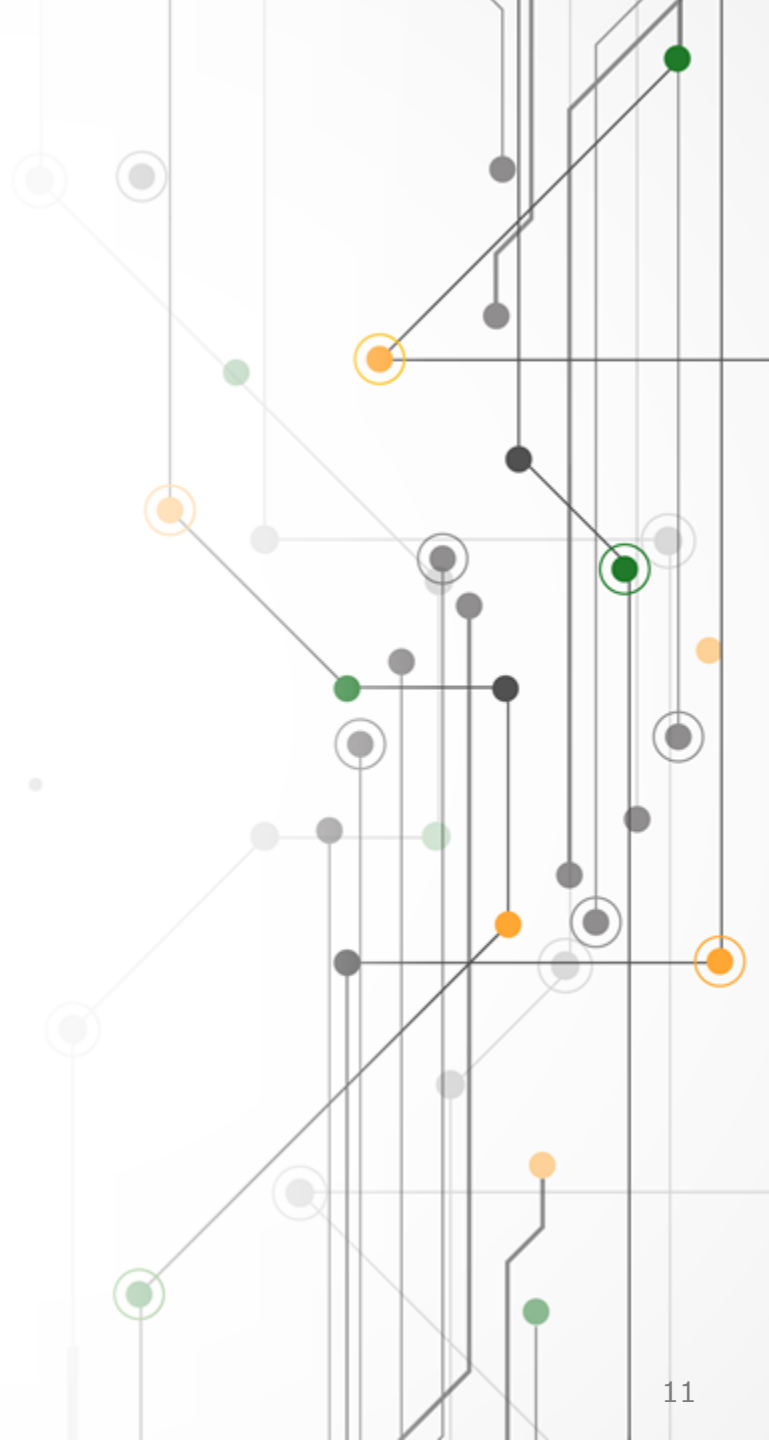
- デバイス事業は、下期伸長ペースが鈍化することが見込まれるものの、売上高は前年度比+9.4%の2,635億円、営業利益は同比+58.3%の120億円を見込む。
- ソリューション事業は、情報通信向け大型案件が2022年度下期に収束するものの、売上高は前年度比+14.7%の365億円。営業利益は同比+19.6%の17億円を見込む。

(単位：億円)		2021年度		2022年度		
		上期	通期	上期	通期予想	前年度比
デバイス 事業	売上高	1,096	2,408	1,462	<b>2,635</b>	+9.4%
	営業利益	34.6	75.8	82.7	<b>120.0</b>	+58.3%
	(売上高比)	(3.2%)	(3.1%)	(5.7%)	<b>(4.6%)</b>	(+1.5pt)
ソリューション 事業	売上高	146	318	214	<b>365</b>	+14.7%
	営業利益	6.6	14.2	11.6	<b>17.0</b>	+19.6%
	(売上高比)	(4.5%)	(4.5%)	(5.4%)	<b>(4.7%)</b>	(+0.2pt)
計	売上高	1,242	2,726	1,677	<b>3,000</b>	+10.0%
	営業利益	40.9	88.5	90.0	<b>130.0</b>	+46.8%
	(売上高比)	(3.3%)	(3.2%)	(5.4%)	<b>(4.3%)</b>	(+1.1pt)

決算概要

第11次中期経営計画進捗状況

Appendix



# 第11次中期経営計画概要



■ 施策は概ね計画通りに進捗。

	施策	内容
第11次中期経営計画施策	ポートフォリオの多様化推進	・非車載ビジネスの拡大と、中堅マーケットへのリーチ
	中華圏ローカル事業の深化	・グループ一体運用によるシナジー極大化 ・地場出資先との協働
	先行投資商材の刈り取りと新規投資	・先行投資商材の刈り取り ・新規商材の発掘
	業態変革への投資	・顧客ニーズ起点での新規ビジネス参入
	既存ビジネスの効率化	・デジタル技術の活用
	基盤整備	・経営情報や教育・リスク管理等の整備
内部管理	ガバナンス強化	・中計目標必達に向けた管理強化
	企業風土（コミュニケーション）	・双方向コミュニケーションの実現

# ポートフォリオの多様化推進

RYOSAN

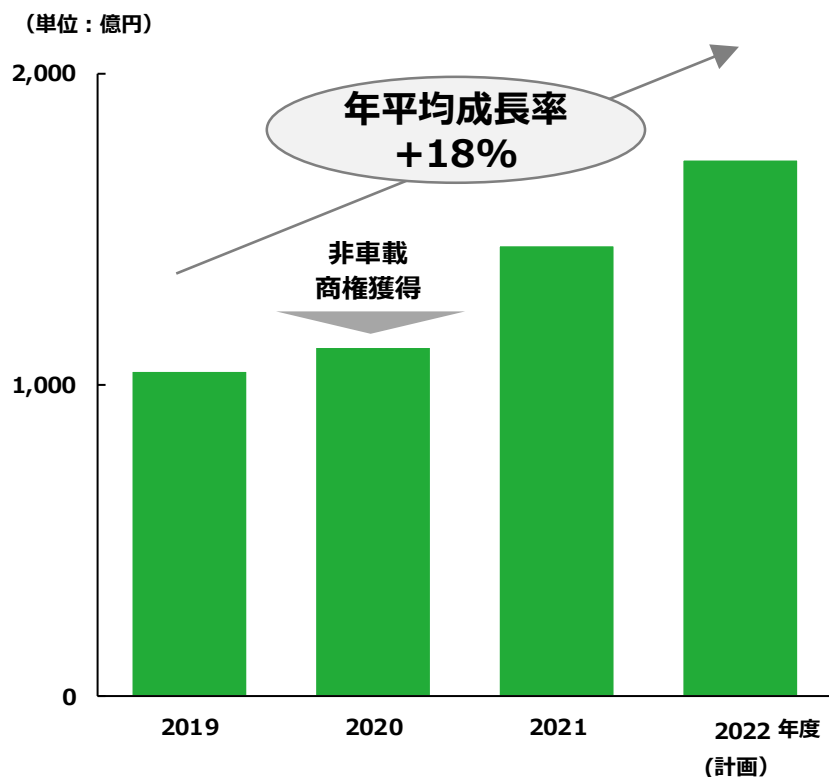
## ■ 非車載ビジネスの拡大

- ・ 商権移管は2022年度上期で完了。新たな商権獲得先を中心に非車載ビジネスを更に拡大。

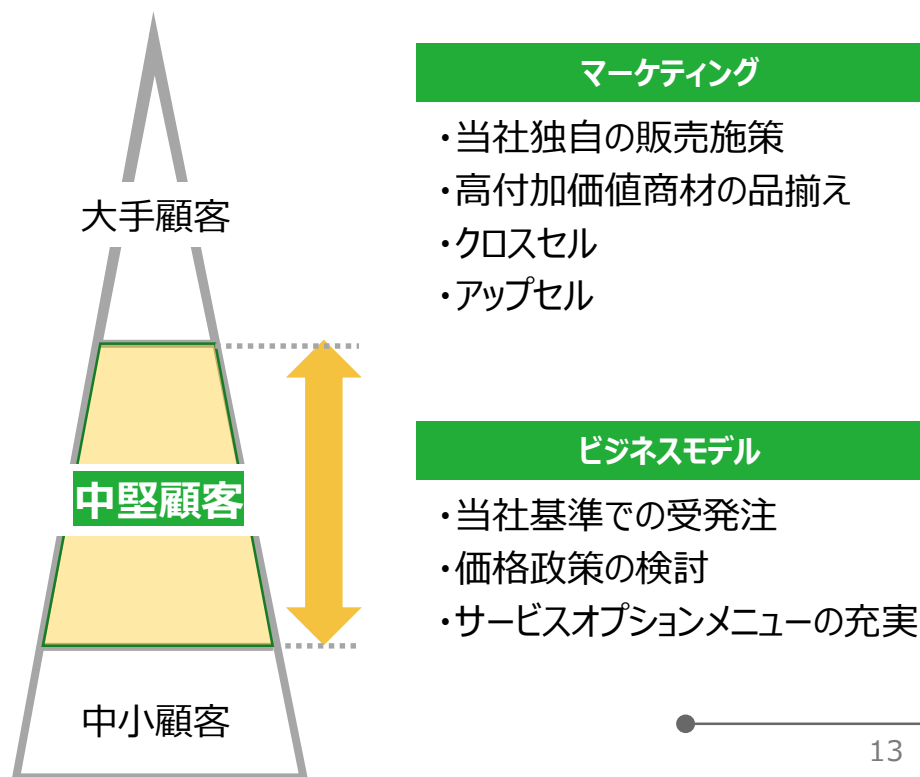
## ■ 中堅マーケットへのリーチ

- ・ 顧客ニーズを起点とするアプローチを軸に、ウェブ等の活用による新しい営業手法をもって、中堅顧客の開拓と商談を推進。各機能の実証実験を経て、順次リリース。

### 非車載 売上高推移



### 中堅マーケットへのリーチ



# 中華圏ローカル事業の深化

RYOSAN

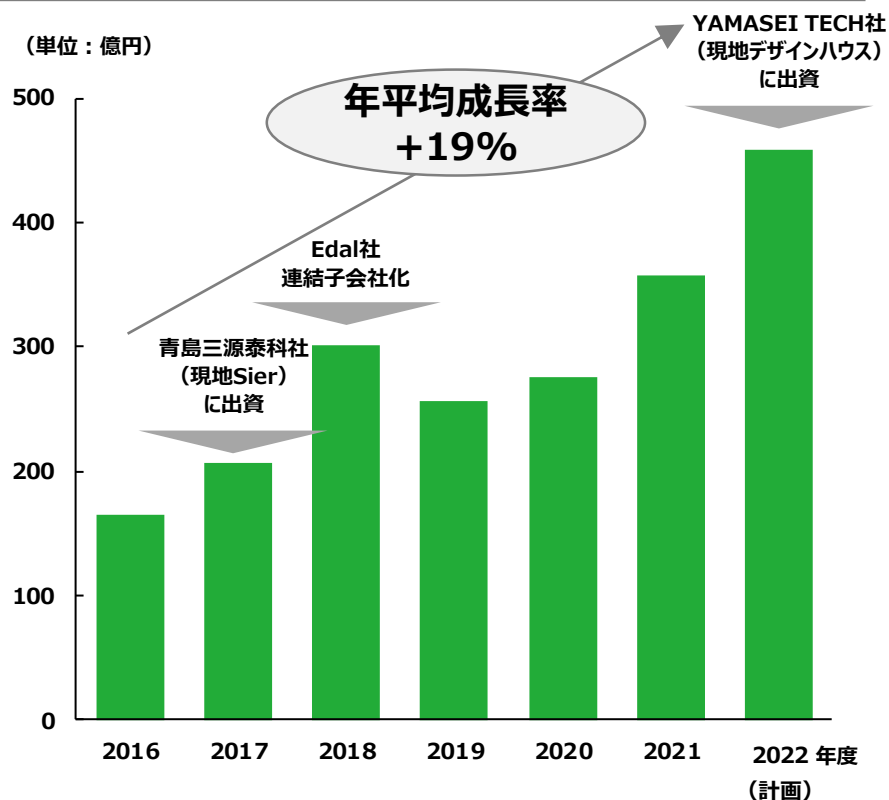
## ■ グループ一体運営によるシナジー極大化

- ・ 青島三源泰科社と、空調制御システム、EV、ロボット分野で協働。
- ・ Edal商材（汎用品）をリョーサンのチャンネルにて拡販。

## ■ 地場出資先との協働

- ・ 2022年5月に台湾デザインハウス YAMASEI TECH社に出資。自動二輪車向けメーターに強み。当社が得意とする車載周辺ソリューションを強化。ローカル取引裾野を拡大。

### 中華圏ローカル売上高推移



### YAMASEI TECH社 概要

会社名	山齊科技有限公司 (英語表記：YAMASEI TECH)	
設立	2020年4月	
CEO	李 道慶	
本社所在地	台湾 台北市	
業務内容	自動二輪向けメーターの製品開発、ソリューション提供、ハードウェアおよびソフトウェア開発、機構デザイン、電子部品調達	

#### 【強み】

- ・ 車載メーター開発実績（欧州・日本向け）と技術力
- ・ 機構デザインからソフトウェア開発までトータルソリューションの提供
- ・ 自動二輪向け台湾Tier1との強固な関係

#### 【開発実績】

- ・ 自動二輪向けメーター
- ・ 農機・建機向けメーター



# 先行投資商材の刈り取りと新規投資



RYOSAN

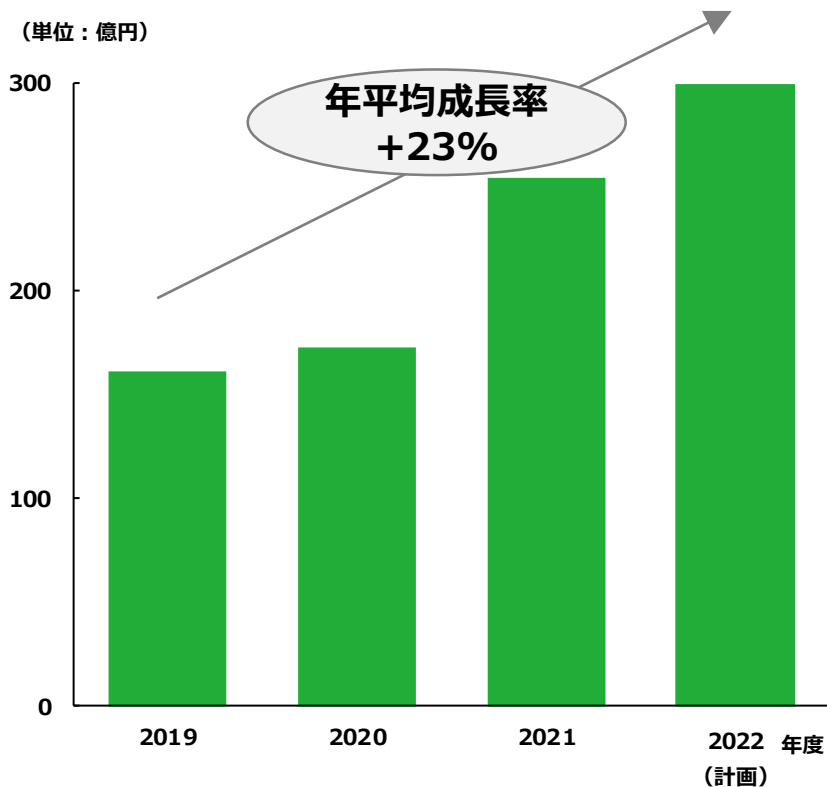
## ■ 先行投資商材の刈り取り

- ・ 車載・産機関連のターゲット顧客へ重点的にアプローチし続けてきた結果、2022年度は300億円規模にまで伸長する計画。目下、2024年度以降の商談に注力。

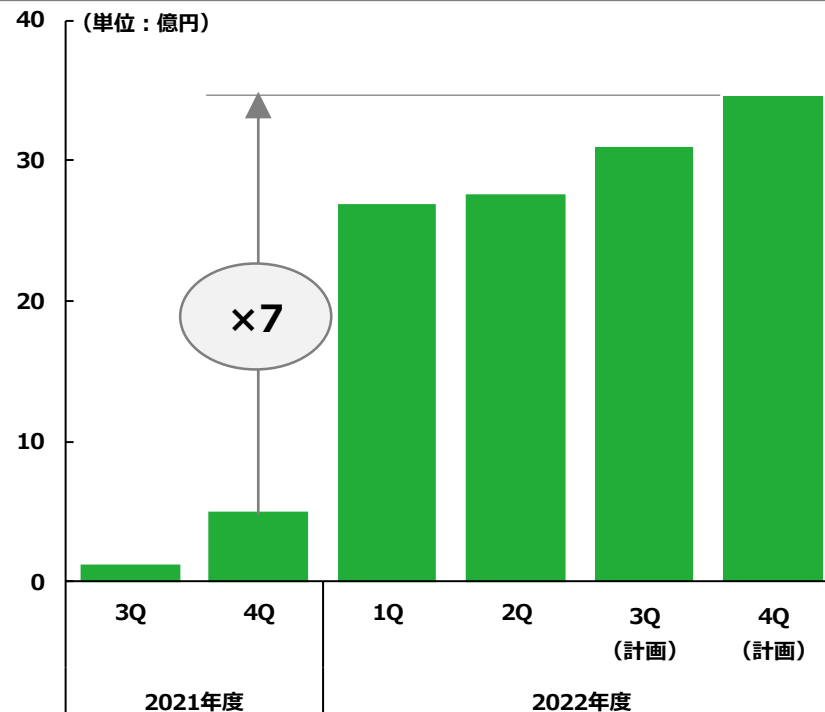
## ■ 新規商材の発掘

- ・ 人的リソースを投入し、新商材発掘に向けての体制を構築。既存商品とクロスセルがしやすい商材から拡充中。早期事業化を目指す。

### 先行投資商材（外資系半導体メーカー）売上高推移



### 新規商材の商談金額推移





## ■ 顧客ニーズ起点での新規ビジネス参入

- ・ 新規ビジネスは、進捗しているモデルに資源を集中投下し、早期事業化を目指す。
- ・ プリント基板メーカー・プリケン社へ出資。業界トップクラスの短納期対応に強み。当社が取り扱う各種商材とのクロスセルを実現。

### 新規ビジネス（事例）

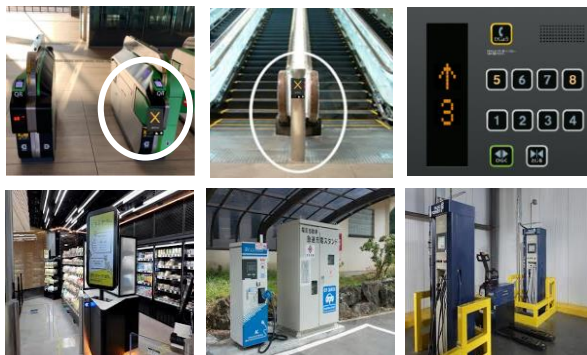
#### 【事例①】 液晶ユニットビジネス

▶ お客さまからのユニットでのご要望を実現



液晶ユニット

(用途例)



#### 【事例②】 機電一体モータービジネス

▶ 仕様検討から量産納入までトータルコーディネート



機電一体モーター

(用途例)



### プリケン社 概要

会社名	株式会社プリケン	
設立	1981年6月	
代表者	田中 信也	
本社所在地	埼玉県 ふじみ野市	
業務内容	各種プリント基板の設計・製造	

#### 【強み】

- ・ 各種プリント基板の開発から、製造、実装までワンストップでのサービスを提供。
- ・ 試作向け基板に特化、多品種、小ロットでの対応が可能。
- ・ 短納期対応は業界トップクラス。



出所： <https://www.priken.co.jp/>







RYOSAN

- 人材育成
  - ・ 社員の成長をもって、会社の成長に繋げることを主眼に、人事・教育制度を充実。
- ガバナンス強化
  - ・ 環境変化に迅速に対応できる管理体制の強化。
- 資金調達多様化
  - ・ 社債発行枠登録に加え、債券流動化活用検討を進める。

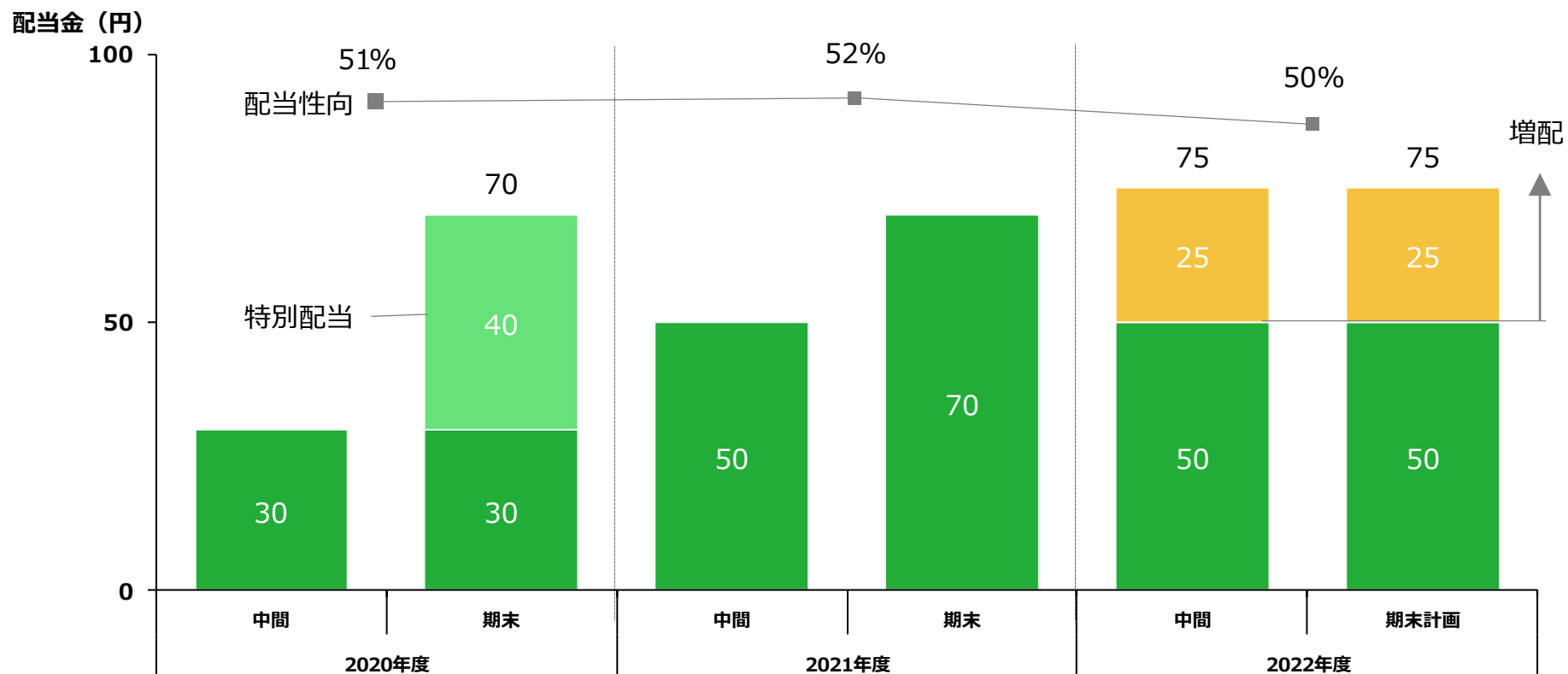
	項目	取組み
人材育成	新人事制度	・ 新人事制度2022年4月開始。上司・部下双方向コミュニケーションによる育成指導に軸足。
	人材育成	・ 研修プログラムを充実、自己啓発を通じて、社員の成長を促す。
	多様性の確保	・ CGコードへの取り組みの一環。多様なバックグラウンドを持った社員の活躍推進。
ガバナンス強化	予算プロセス	・ 次年度を見据え、全社最適に向けたリソース配分方法の考え方を再整備。
	経営情報高度化	・ 経営情報を充実させ、経営状況のモニタリング態勢を強化。
	会議体運営	・ 施策効果検証の厳格運用と定着化。
資金調達多様化	社債発行枠登録	・ 2022年10月に社債発行枠を登録。資金調達の新たな選択肢として追加。
	債権流動化検討	・ プール型債権流動化プログラム活用による資産効率向上。

## 株主還元計画

RYOSAN

- 配当基本方針は、連結配当性向は50%を目途。
- 2022年度中間配当及び期末配当計画は、各々前回計画から25円増配し、75円。

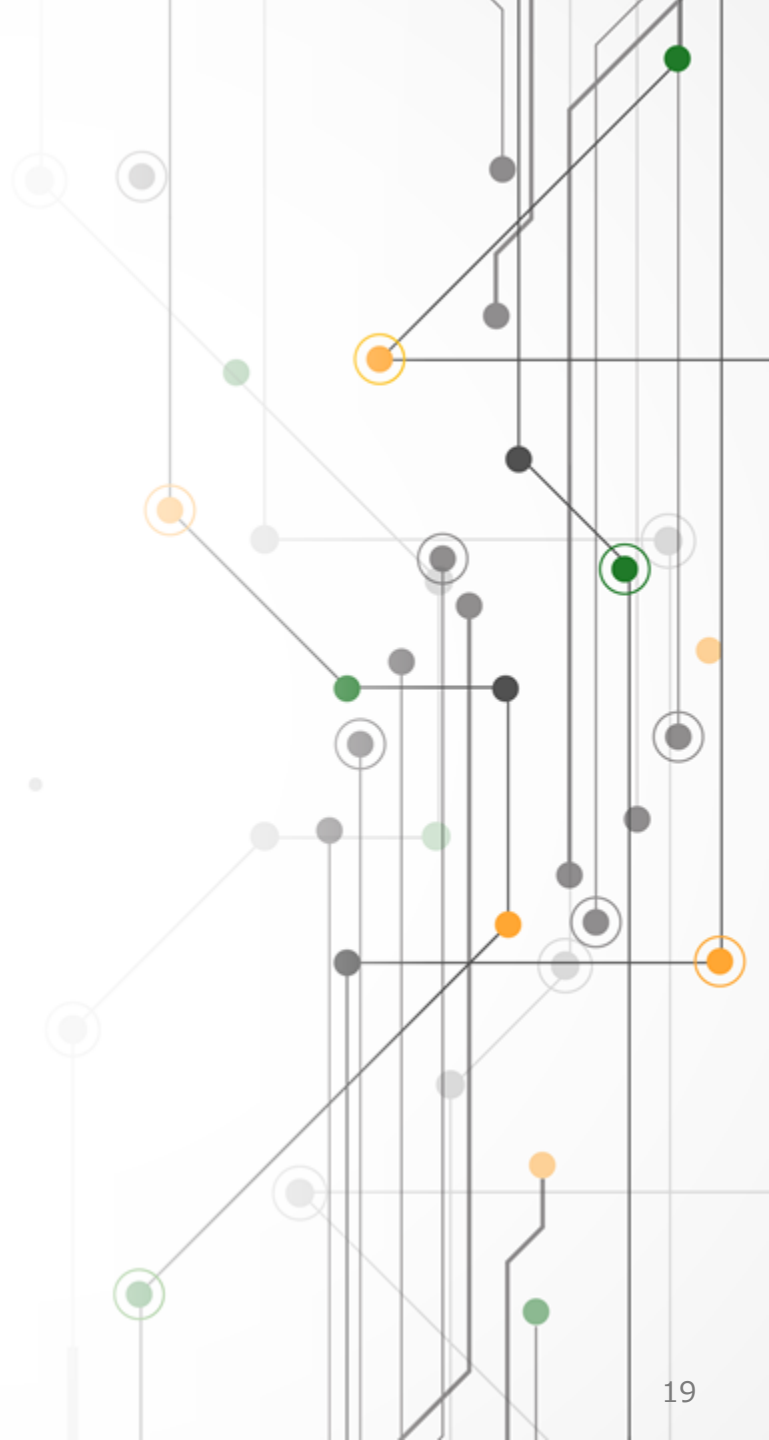
## 1株当たり配当金



決算概要

第11次中期経営計画進捗状況

Appendix



# 気候変動への取組み

RYOSAN

- エレクトロニクス領域で安心・最適を創り出していくことを通じ、地球・社会・取引先・従業員・株主等様々なステークホルダーとともに持続的に成長していくことを目指していく。
- 2022年度の気候変動に関する取組みとして、TCFD提言に則り、各種評価を実施。

## リスクと機会

	リスク	機会
脱炭素社会への移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱酸素化対応遅延に伴う受注機会減</li> <li>製品開発コスト増</li> <li>温室効果ガス排出量取引制度導入による製造・調達コスト増</li> <li>炭素税の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネに向けた自動化ロボット需要増</li> <li>脱炭素化・省エネ化等新製品需要増</li> <li>EV関連製品の商機・受注機会の増加</li> </ul>
異常気象・自然災害の激甚化	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害による、営業資産の毀損</li> <li>調達先被災による代替品調達コスト増加</li> <li>BCP対応のための在庫・保管コスト増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境計測ニーズによる商機・受注機会の増加</li> <li>BCP対応を背景としたサプライチェーン複線化による受注機会増</li> </ul>

## インパクト評価

リスク	追加コスト (2030年) +1.5~+4.0℃
炭素税導入	約0.2~約21百万円
洪水・高潮による拠点浸水	約105百万円

## GHGグローバル排出量 (CO2)

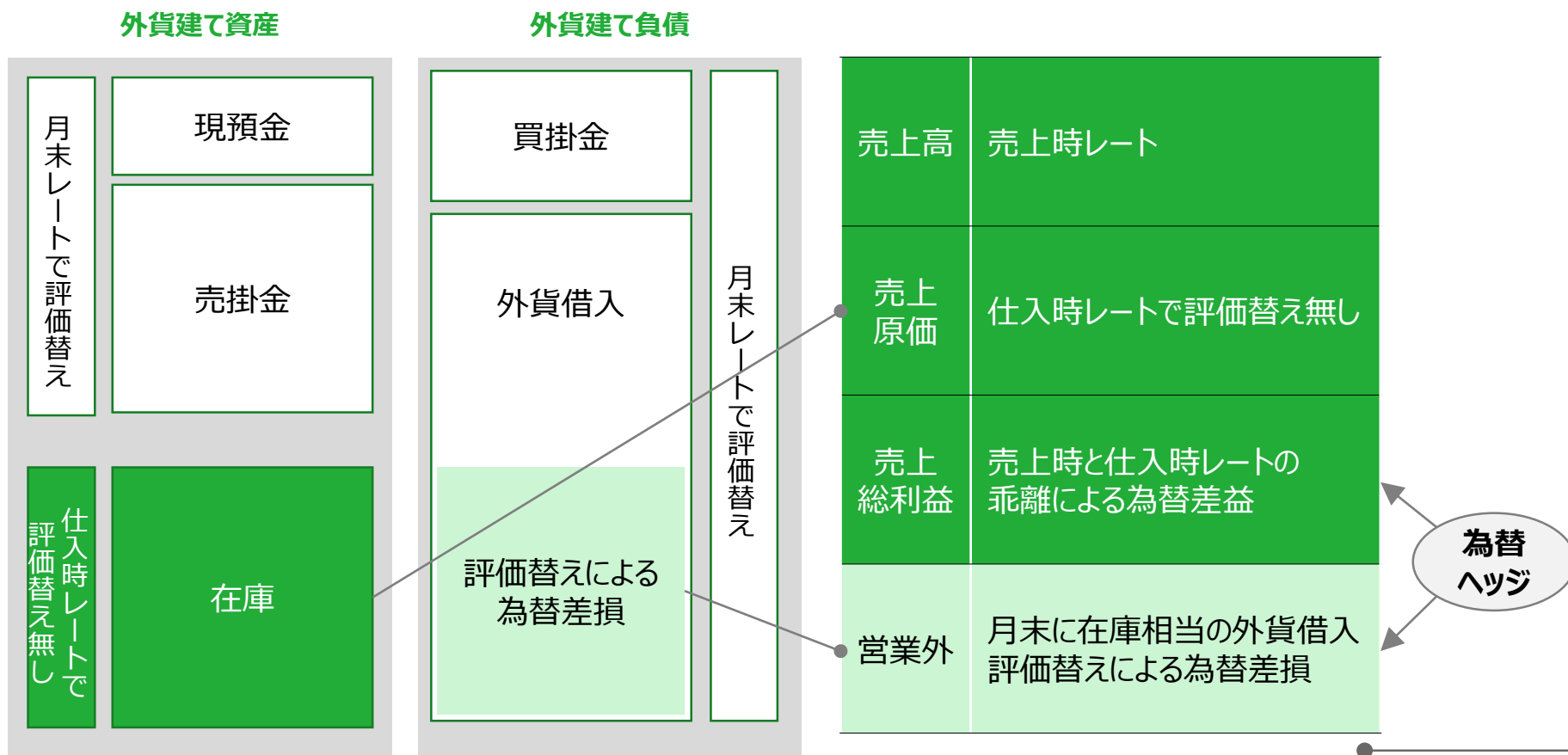
Scope 1+2 (単位: t)	国内	海外
□ケーション基準	1,251	241
マーケット基準	1,206	245

# 為替差損計上要因

- 当社では、外貨建て売上への為替リスク対応として、保有する外貨建て資産と負債を外貨借入を用いてバランスさせ、為替影響を極小化。
- 外貨借入によって営業外為替差損が生じた場合、売上総利益部分で為替差益が発生。

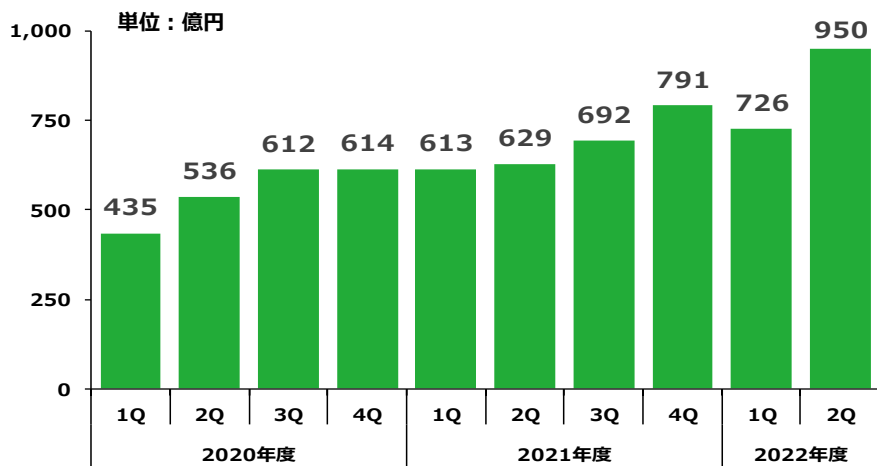
BS

PL

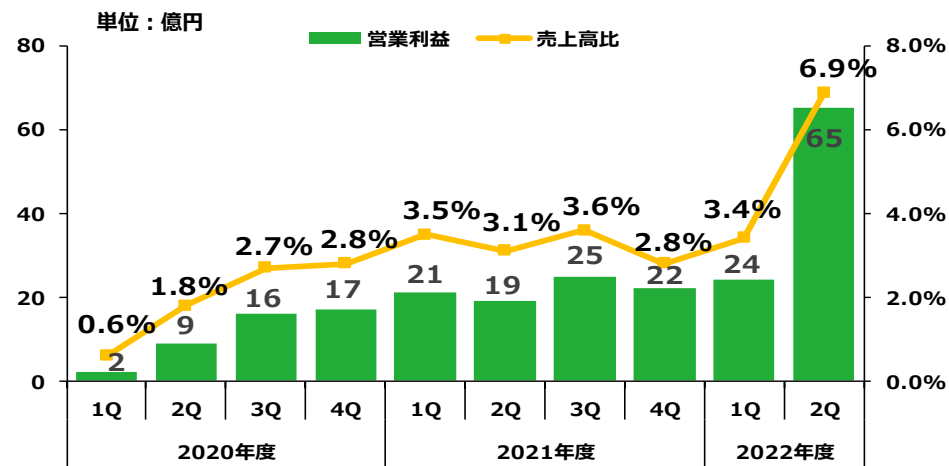


# 四半期毎 連結業績

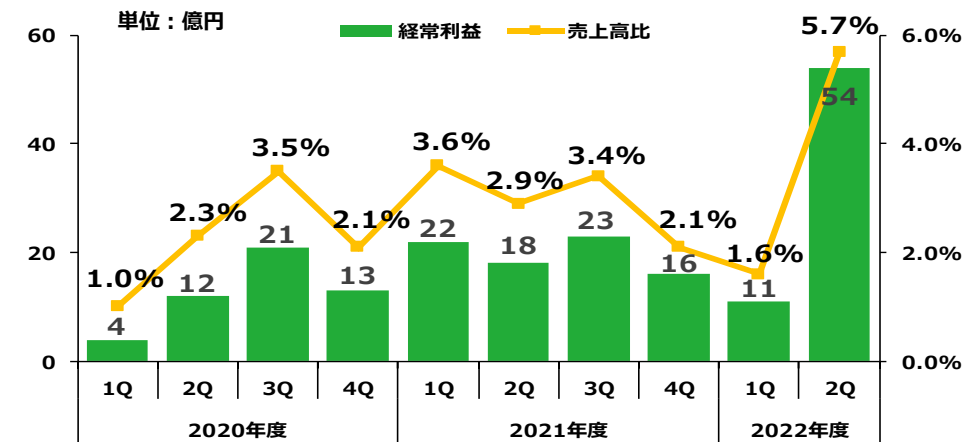
## 売上高



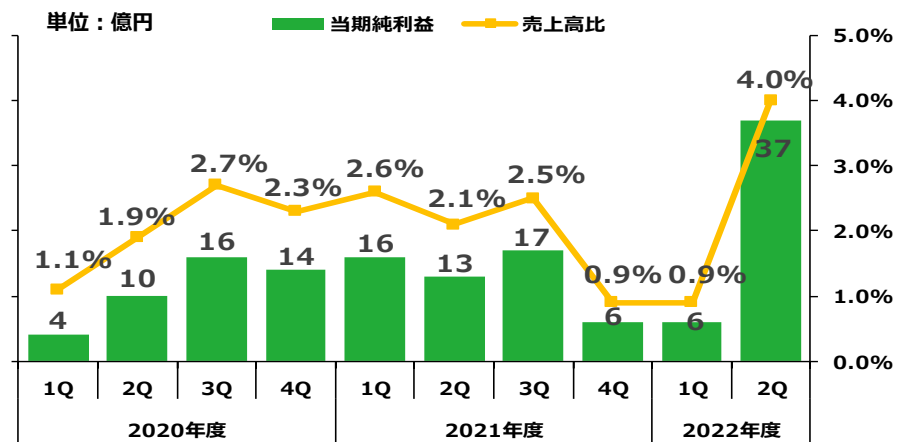
## 営業利益



## 経常利益



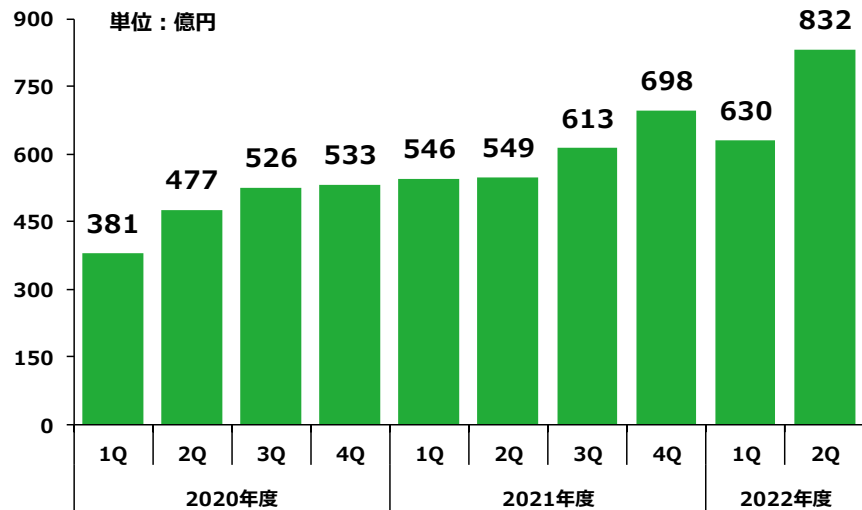
## 当期純利益



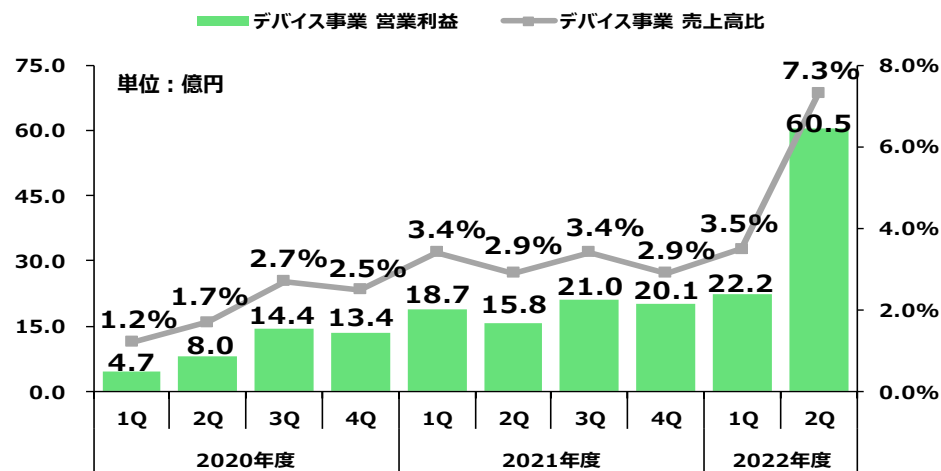
# 四半期毎 事業別業績



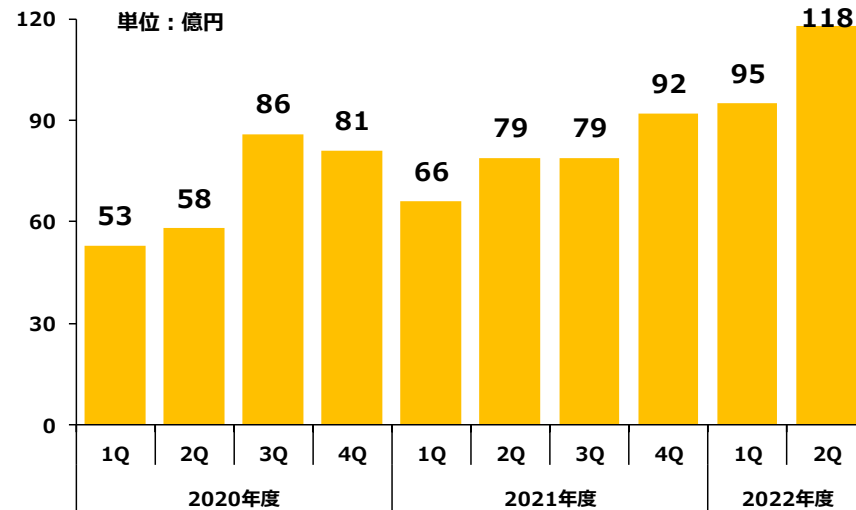
## デバイス事業 売上高



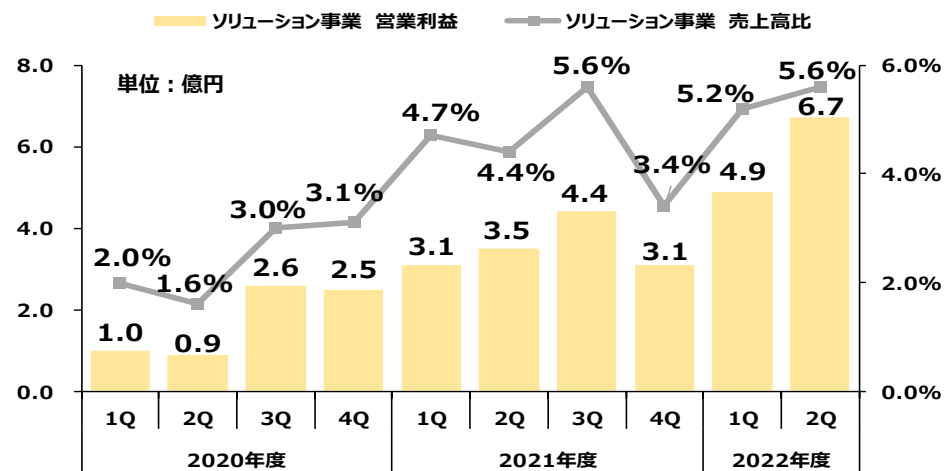
## デバイス事業 営業利益



## ソリューション事業 売上高

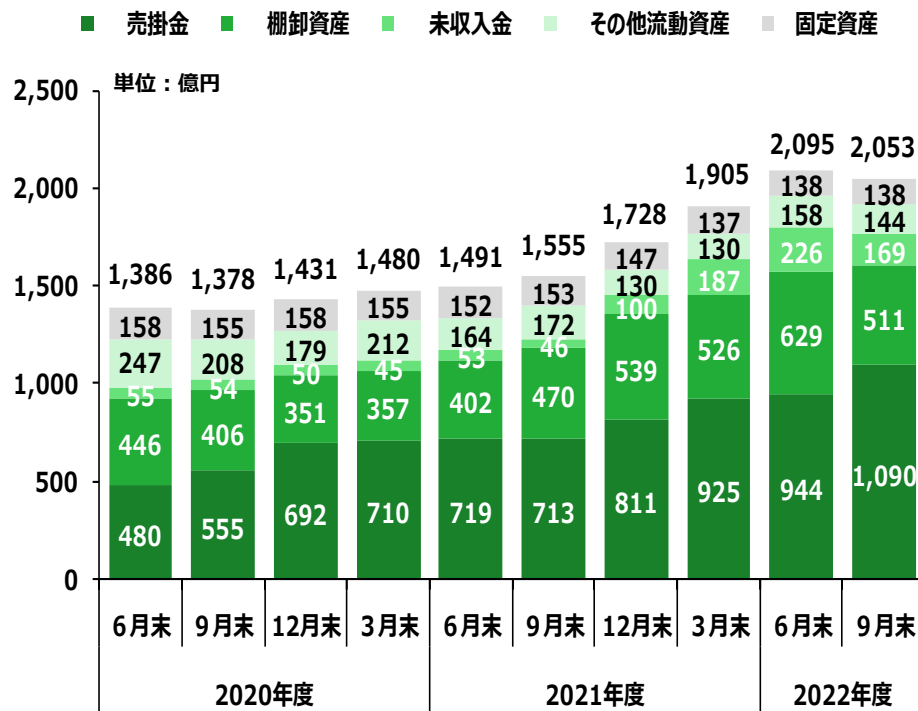


## ソリューション事業 営業利益



# 四半期毎 連結貸借対照表

## 資産



## 負債・純資産

